

米軍とバングラデシュ空軍、「コープサウス2022」開会式でパートナーシップを祝う *U.S., Bangladesh Air Forces celebrate partnership during Exercise Cope South 2022 opening ceremony*

February 23, 2022

By Tech. Sgt. Christopher Hubenthal
374th Airlift Wing Public Affairs

[バングラデシュ]バンガバンドウ・バングラデシュ空軍基地発—
第36遠征空輸中隊所属の米空軍兵とバングラデシュ空軍(BAF)の隊員は、2月19日に開催された共同演習「コープサウス2022」の開会式でキックオフを祝った。

演習「コープサウス」は、年2回行われる太平洋空軍が主催する二国間戦術空輸演習で、米軍とバングラデシュ軍がパートナーシップを強化し、相互運用性を高めるために共同訓練を行うものである。

式典の開会の辞では、バングラデシュ空軍のハサン・マフムード・カーン空軍副司令官が、米空軍とバングラデシュ空軍のパートナーシップの重要性を強調するスピーチを行った。

「この演習は、バングラデシュの軍隊にとって非常に有益なもので、長年に渡って専門的能力を習得してきた」とハサン副司令官は述べ、「この演習が始まって以来、過去27年間に渡り、バングラデシュ軍、特にバングラデシュ空軍は、空軍間の相互運用性を発展させてきた」と続けた。

第36遠征空輸中隊司令キラ・コフィー中佐は、式典のスピーチの中で自身のエピソードに触れ、式典前に話したバングラデシュ空軍将校との共通点を強調した。

「昨晩、サジッド空軍中尉という素晴らしい若手の将校と話をしていた。我々が軍服を着る理由・・・その理由は沢山ある、という話をした」とコフィー中佐は話し、「その中で、我々の多くにとって共通することの一つは、我々より大きな目的のために任務に当たることには意義があると信じるからである。人道支援と災害救援は、我々がバングラデシュと共有する能力であり、重要な目的だ。価値ある戦術的空輸訓練を実施し、互いから学ぶことで、より有能になるだけでなく、共に成長できることを期待している」と語った。

米軍とバングラデシュ軍は、軽食と集合写真の後、式典を締めくくり、本年のコープ・サウス演習を開始した。

ハサン副司令官は、「米国からのゲスト(隊員たち)がバングラデシュでの滞在を快適に過ごし、バングラデシュの人々の温かいもてなしを享受することを願っている」と述べ、「これから始まる演習『コープサウス2022』が、安全で充実した演練の機会になることを望んでいる。演習の成功を祈念する」と述べた。

米空軍兵70人以上、米宇宙軍ガーディアン1人、バングラデシュ空軍の隊員約300人は、一週間に渡る演習で最良の(作戦)方法を共有し合い、共同訓練目標を達成する。

そして、演習「コープサウス2022」を通じ、参加隊員の任務を演練し、習熟度を評価し、米軍とバングラデシュ軍間のパートナーシップ能力を強化するために今後の訓練などを確認する。

